

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2020.8.10-16

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。

8:27 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

8:29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多く兄弟たちの中で長子となられるためです。

8:30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。

御霊は私たちを愛してください。その愛の深さは、私たちのために「うめいて」くださるほどです。私たちの罪や苦難に対して、そこまでの思いでとりなしてくださる神の愛を、すなわち御霊の愛を忘れないでいましょう。今日も愛の御霊がともにいてくださることを感じて、御霊の思いを受けて、御霊が喜ばれるように生活しましょう。

私たちは、「あらかじめ」その信仰が「神に知られて」いました。だからこそ救いに「定められて」いたのです。その「栄光」を与えられているのですから、「すべてのことを働かせて益として」いただけるのだと確信して、その時を待ち望みましょう。

その信仰を持って、積極的な考えで判断し、行動してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶11日 火曜

ローマ



8:31 では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。

8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。

8:33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。

8:34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。

8:35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

8:36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。

8:37 しかし、私たちは、私たちを愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、

8:39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

「罪に定めようとするのは」サタンです。過去の失敗や傷を持ち出して、私たちの心を不安定にさせ

て、救われていないかのように思わせてくるのです。しかし、「死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなして下さるのです。」から、私たちは救いを疑うことはできません。

私たちは「圧倒的な勝利者となる」と確信して良いのですし、また「どんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」と、安心していれば良いのです。そのような自己像をしっかりと持ちましょう。今日もそのことを感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶12日 水曜

ローマ

9:1 私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。

9:2 私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。

9:3 もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。

9:4 彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。

9:5 先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上にある、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。

9:6 しかし、神のみことばが無効になったわけではありません。なぜなら、イスラエルから出る者がみな、イスラエルなのではなく、

9:7 アブラハムから出たからといって、すべてが子どもではなく、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる。」のだからです。

9:8 すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、約束の子どもが子孫とみなされるのです。

9:9 約束のみことばはこうです。「私は来年の今ごろ来ます。そして、サラは男の子を産みます。」

9:10 このことだけでなく、私たちの先祖イサクひとりによってみごもったリベカのこともあります。

9:11 その子どもたちは、まだ生まれてもおら



ず、善も悪も行なわないうちに、神の選びの計画の確かさが、行ないにはよらず、召してくださる方によるようにと、

9:12 「兄は弟に仕える。」と彼女に告げられたのです。

9:13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ。」と書いてあるとおりです。

十字架の救いは全人類のためです。そのために律法は無効でしたが、罪の自覚とさばきを与えるものでした。その律法は歴史的にはイスラエル人に与えられたもので、イスラエルは律法を守りきれずに神様から罰を受けたのです。そこで一つの考えが浮かびます。イスラエルはただ失敗して裁かれるために、神様から選ばれたのかという考えです。

それに対してパウロは「私の心には痛みがあります。」また、「彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。」と言っています。自分の民であるイスラエルを愛しているのです。

パウロはイスラエルのために愛して、心を砕いて祈ったはずですが、そこで先ずイスラエルが神に選ばれた民であり、イサクやヤコブのように神に選ばれたのだと明言します。

後に彼はイスラエルの救いについて、その希望を明かにしますが、このような同胞への愛があったからです。救いのために必要なのは愛です。「のろわれた者となることさえ願う」ほどの愛を持って、救いを祈るなら必ず道が開かれると知りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:14 それでは、どういうことになりますか。神に不正があるのですか。絶対にそんなことはありません。

9:15 神はモーセに、「わたしは自分のあわれむ者をあわれみ、自分のいつくしむ者をいつくしむ。」と言われました。

9:16 したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。

9:17 聖書はパウロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわたしの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである。」と言っています。

9:18 こういうわけで、神は、人をみこころのままにあわれみ、またみこころのままにかたくなにされるのです。

9:19 すると、あなたはこう言うでしょう。「それなのになぜ、神は人を責められるのですか。だが神のご計画に逆らうことができましょう。」

9:20 しかし、人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った者に対して、「あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか。」と言えるでしょうか。

9:21 陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権利を持っていないのでしょうか。

9:22 ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どう

でしょうか。

9:23 それも、神が栄光のためにあらかじめ用意しておられたあわれみの器に対して、その豊かな栄光を知らせてくださるためになのです。

9:24 神は、このあわれみの器として、私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。

イスラエルを特別に選んだという神の行為は不公平ではないのか…という疑問にパウロが答えています。不公平つまり不正というのは、人間中心の考えであって、その決定権は創造主である神にあるのだとパウロは言います。

それは丁度陶器を作る者は「尊い」ものも「つまらない」ものも作る権利があるのであって、作る者の自由ではないかということです。至極当たり前のことです。

しかしパウロの話はそのような理屈の勝利では終わりません。神は「その理屈を越える神の恵みがあるのです。滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐してくださった」のだというのです。つまり、怒りの対象であった「つまらない」ものであったはずの異邦人が、救われたというのです。

それは「ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも」というように、全人類から救われたのです。決してイスラエルの選びは不公平や不正ではなく、神の「豊かな寛容」は全人類に及んでいるのです。

このような大いなる救いの御計画を覚えつつ、自分の救われたことの驚きを感じましょう。またこの大きな力に依り頼んで、身近な人の救いのために労しましよ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9:25 それは、ホセアの書でも言っておられるとおりです。「わたしは、わが民でない者をわが民と呼び、愛さなかった者を愛する者と呼ぶ。

9:26 『あなたがたは、わたしの民ではない。』と、わたしが言ったその場所で、彼らは、生ける神の子どもと呼ばれる。」

9:27 また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。「たといイスラエルの子どもたちの数は、海べの砂のようであっても、救われるのは、残された者である。

9:28 主は、みことばを完全に、しかも敏速に、地上に成し遂げられる。」

9:29 また、イザヤがこう預言したとおりです。「もし万軍の主が、私たちに子孫を残されなかったら、私たちはソドムのようになり、ゴモラと同じものとされたであろう。」

9:30 では、どういうことになりますか。義を追い求めなかった異邦人は義を得ました。すなわち、信仰による義です。

9:31 しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しませんでした。

9:32 なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。

9:33 それは、こう書かれているとおりです。「見よ。わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。彼に信頼する者は、失望させられることがない。」

ホセア書、イザヤ書などを見ても、神様の選びの正等性について論じられています。神様がイスラエ

ルを選ばれたということは支持されます。しかし「スラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しません」でした。「信仰によって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたから」です。

それは神様にとっては想定内のことでした。

「わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。」とあるとおりです。一方、その神様がまた「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」とも言っておられます。

すべてのことは神様が御存知です。そしてまた神様が希望となってくださるのです。このつまずきの石とはイエス様のことです。そして彼こそが希望でもあるのです。

十字架で死なれたというような、一見弱いイエス様につまずく人は多いでしょう。しかしまたこのイエス様こそが、それらの人々をも救ってくださるのですから、大胆にイエス様を宣べ伝えましょう。イエス様に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:1 兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。

10:2 私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。

10:3 というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。

10:4 キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです。

10:5 モーセは、律法による義を行なう人は、その義によって生きる、と書いています。

10:6 しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、だれが天に上るだろうか、と言ってはいけません。」それはキリストを引き降ろすことです。

10:7 また、「だれが地の奥底に下るだろうか、と言ってはいけません。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。

10:8 では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。

10:9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

10:11 聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」

10:12 ユダヤ人とギリシヤ人との区別はあり

ません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。

10:13 「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。

パウロは同胞イスラエルを愛していたので、彼らが救われることを願っていました。しかし彼らは熱心でありながら、本当の救いと信仰義認の知識に基づいていなかったのです。

「信じる人はみな義と認められる」のですから、救いは信仰によります。しかし律法による救いは人間の力で救うことなので、人間の力を神の力と同等にしてしまっています。ですからそれは人間が「キリストを引き降ろす」ことになります。また死なれたイエス様を復活させる力が、人間にもあるなら、「キリストを引き上げる」ようなこともできるでしょう。もちろんそれはできないことです。

救いは信仰によるのです。それによって「ユダヤ人とギリシヤ人の区別はありません。」というように、全人類に公平な救いが実現するのです。

自分の救いが一方的な恵であったことを、新たな思いで感謝しましょう。また人の救いのために、もっと祈って主のみわざを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:14 しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じるができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。

10:15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」

10:16 しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。」とイザヤは言っています。

10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

10:18 でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。「その声は全地に響き渡り、そのことばは地の果てまで届いた。」

10:19 でも、私はこう言います。「はたしてイスラエルは知らなかったのでしょうか。」まず、モーセがこう言っています。

「わたしは、民でない者のことで、あなたがたのねたみを起させ、無知な国民のことで、あなたがたを怒らせる。」

10:20 またイザヤは大胆にこう言っています。「わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、わたしをたずねない者に自分を現わした。」

10:21 またイスラエルについては、こう言っています。「不従順で反抗する民に対して、

わたしは一日中、手を差し伸べた。」

パウロは、全人類に共通する”救いに至るための必要条件”に言及します。すなわち「宣べ伝えられるということで、それはつまり誰かが伝道しなくては、人は救われられないということです。

救いのために祈っている人がいるのでしょうか。私たちはそのために何を行動しているのでしょうか。近いうちに誰かが、その人に宣べ伝えるように、祈りましょう。そのために行動しましょう。おそらく、その誰かは自分であるのだと示されるでしょう。

次にイスラエルについてパウロは問題を提起します。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」という問いかけに対して「むろん、そうではありません。」と結論付けています。

歴史に存在するイスラエルに神様は御自身を表し、律法を与えました。ですからイスラエルの存在は、神が現実の歴史に介入なさるとい証拠でもあります。そしてイスラエルの救いもまた神様が歴史に介入して救われるという証しでもあります。

それゆえ神様はイスラエルを現実的に愛しておられるのです。神様が御自身を表す民として選ばれ、そこから苦難の歴史の中で彼らが生きてきたからでもあるでしょう。

それは私たちの個人の人生も同じです。主の証のために苦難にある人は、神様がイスラエルを愛しておられると同じように愛されていることを確信しましょう。またその証しであるイスラエル民族を愛してとりなしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

